

一人一人大切ナリ

奨励	鈴木 直人〔すずき・なおと〕
奨励者紹介	同志社大学心理学部長
研究テーマ	感情心理学・環境心理学・精神生理学

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言っておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

（マタイによる福音書 18章10―14節）

皆さん、おはようございます。心理学部の鈴木です。心理学部の開設に伴い、今年から、この京田辺校地に研究室を移しました。これからはこの京田辺校地で生活していくことになります。

この同志社スピリット・ウィークは、私がキリスト教文化センターの所長をしていたとき、今日、司会をしてくださっている越川先生と、「同志社は私学、私立学校、神学部の本井先生流に言えば、志学、志をもった学校なのに、入学式と卒業式以外では、校祖新島の話を書くこともなく、同志社がどういう学校なのか、ある人に至っては、同志社ってクリスチャンの学校だったの、同志社ってカトリックの学校だよな、という学生や教職員までいる状態なのをなんとかできないだろうか。第一、この京田辺校地にはクリスチャンの学校なら当然あるべきチャペルすらない。せっかく同志社に入学してきた学生やそこに関係した教職員が、同志社の「志」を知らずに卒業し、退職していくのは残念だ」という思いをなんとかできないかと、とにかくそういうものに触れる機会を作ろうと相談して始めたものでした。

今日の話は、タイトルを求められて、安易にお答えしてしまい、後で考えてみたら、以前同様の話をしていたことに気が付きました。以前の話とダブっている点があることをお許しください。

同志社を震撼とさせた三つの事件

今から6年前、2005年に同志社を震撼させる三つの事件が起こりました。

一つは四月二十五日に起こったJR福知山線の脱線事故、二つ目はその二日後に起こった磐越自動車道のバス横転事故であり、もう一つは十二月十日に起こった宇治学習塾小六女児殺害事件です。この三つの事件は、同志社を二つの立場に立たせました。二つは被害者としての立場、そしてもう一つは加害者としての立場です。

JR福知山線の事故と、磐越自動車道のバス横転事故では、同志社は被害者の立場であり、あの事故で少なくとも同志社が罪の意識を感じることはほとんどありませんでした。

誤解を招く言い方かもしれませんが、亡くなられた方の冥福を祈り、怪我をした方の回復を願い、心に傷を負った学友の一日も早い快復を祈るばかりでした。

しかし、宇治の事件は、同志社は加害者の側なのです。犯人は、高校から同志社の教育を受けた、われわれ同志社人の一員だったのです。この事実は紛れもない否定することの出来ない事実なのです。同志社教育は、彼に「一人一人の大切さ」を教えることができなかったのです。

事件後5年をむかえた昨年、JR事故を悼んで、キリスト教文化センター主催で追悼礼拝が行われたと記憶しています。今年も、小規模ながら追悼礼拝が行われました。

もちろん合計6人の同志社人の命が奪われ、多くの怪我人を出し、多くの人の心へダメージを与えたJR福知山線の事故、そして磐越自動車道のバス横転事故ですので、そうした追悼礼拝をおこなうことにとやかく言う気は全くありません。

しかし、昨年、5年を迎えた宇治の事件の被害者を悼んだ追悼礼拝は行われたのでしょうか。

昨年のチャペル・アワールの奨励で、是非それを行っていただきたいをお願いをしました。行われたとすれば、申し訳ありません。不幸にして私は気がつきませんでした。被害者になった方はなかなか忘れ去ることができず、追悼会も開きやすいと思いますが、加害者になった事件を思い出すのは嫌なものです。できれば忘れてしまいたいと思うのは私も同じです。だからどうしても、消極的になってしまいます。

ただ、宇治の事件のとき、私は次の年にできる小学校校長予定者として、さまざまな場所で、「同志社小学校は、これまでの同志社がそうであったように人を育てることを目的とする」と言い続けてきました。

あの事件が起きた12月10日も私は、ある会合で挨拶を頼まれていました。挨拶をするときには私は宇治の事件の粗筋を知っていました。そのときの、挨拶、砂を噛むような味気なさ、無味乾燥さを感じながら「同志社は人を育てることを目的としてきた」という言葉を語ったことを昨日のように覚えています。このため、この事件は、他の人よりも私には決して忘れ去ることのできない事件なのかもしれませんが、本当にそれだけなのでしょうか。同志社はこの事件を忘れ去ってしまっただけなのでしょうか。1年後でしたか、責任のある地位にいるある先生が私に言いました。「鈴木先生、もういいんじゃないですか。まだこの事件を背負っていく必要があるのですか」。私は「同志社が、人を育てるということを標榜する以上、この事件は、同志社は未来永劫、背負っていく必要がある」と答えました。

新島の教育理念

新島は、国家百年の謀は人を育てることにあると考え、同志社を設立しました。新島の目指した教育を一言で言えば「人を育てる」ことにあったと私は思います。その同志社の学生が起こした、人を殺めるという、あってはならない事件がこの事件でした。

「諸君ヨ一人一人大切ナリ」

臨光館回廊側壁に刻まれているこの言葉は、新島が同志社創立十周年記念会の祝辞のなかで語ったものです。

この祝辞のなかで、新島は渡米中に退学処分になった数名の学生のことにふれ、

「諸君ト共ニ今往事ヲ追想シテ記念シタキハ、昨年我ニ不在中同志社ヲ放逐セラレタリシ人々ノ事ナリ、真ニ彼等ノ為メニ涙ヲ流サザルヲ得ズ、彼等ハ或ハ真道ヲ聞キ真ノ学問ヲナセシ人々ナレトモ、遂ニ放逐セラルノ事ヲナシタリ、諸君ヨ一人一人大切ナリ、一人一人大切ナリ、往事ハ已ニ去レリ之ヲ如何トモスル事能ハズ、以後ハ我僕等ニ謹ム可シ（先生流涕胸塞クヲ演ヘラル、満場一人トシテ袖ヲ濡サル者ナカリキ（『新島襄全集』1 107頁より）」と涙ながらに語ったとあります。

私は、新町キャンパスに建設中の臨光館に掲げる言葉として、当時の森田企画部長より、聖書もしくは新島の言葉で何かよい言葉はないかと聞かれたとき、即座にこの言葉を提案しました。

ご存じのように、新島の言葉には同志社人なら誰もが知っている有名なものが沢山あります。

「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」、「真理は寒梅の似（ごとし） 敢（あ）えて風害を侵（おか）して開く」、「同志社は隆なる二従ひ機械的ニ流るゝの恐れあり切に之を戒慎す可き事」、「^{てきとうかさ}剛愎不韌なる書生ヲ匠束せす」など、どれも新島の教育理念、新島の精神を表す言葉です。

しかし、私はこの「一人一人大切ナリ」という言葉ほど、新島の教育理念を端的に表した言葉は無いと思いますし、新島の教育理念を子どもにも理解させることのできる言葉はないと思っています。

ある小学生のエピソード

小学校の校長をやっているとき、礼拝の奨励で「一人一人は大切ですよ」という話をしたことがあります。それから、数週間たったころでした、一年生のA君と他の子どもたちがもめているところを通りかかりました。原因を聞いてみると、A君が、他の子どもたちのものを乱暴に扱ったため喧嘩になったとのことでした。

A君に、「A君、君が他の人のものを乱暴に扱ったことが原因なんだね」と言うと、A君は突然泣きだし、言いました。「だって、一人一人は大切だと先生は言ったもん、一人は大切だもん。僕のことも大切だもん」「A君、そうだね。君のこともちろん大切だよ。でも他の友達も大切なんだよ。A君一人だけが大切だけではないんだよ」「A君も、他の人のことを大事にしないといけないよね」。

さらに数週間後、一年生の朝の礼拝でこの話を取り上げました。「この話の問題はどこにあったのだろうね」ということを一年生に聞いたところ、多くの子供が手を挙げました。A君も勢いよく手を挙げましたので、A君を指名しました。「はい、その子が皆のことを自分のことのように大切にしなかったからだと思います」。

言葉というのは、難しいなあと思いました。本当の意味はなかなか伝わりにくいものでしょう。同時に子どもたちがその言葉を覚えていたことにも感動しました。

先ほど司会の越川先生が読まれた、マタイによる福音書18章10節から14節は、皆様ご存じのように、いわゆる「迷い出た羊のたとえ」という、迷いのない99匹の羊よりも、迷ってしまった1匹の羊を救うことが大いなる喜びであるという有名な箇所です。

まさにA君はこの迷い出た羊、そのものだったように思います。こうした迷い出た羊を私たち現代人は、アウトローだとか、厄介ものであるとか、頑固ものであるとか、変った人間であるとか、レッテルを張って差別しがちです。最近の社会ではそれが、極端になってきたようにも思います。こうした偏見をもたないよう、一匹の大切さを覚えていきたいものです。

同じ、マタイによる福音書25章31―40節（新共同訳）に次のような箇所があります。

「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊（やぎ）を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊（やぎ）を左に置く。そこで、主は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。

『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである』。

人のために尽せるのか

誰かがお腹を空かしていたら食べるものを与え、のどが渇いていたら水を飲ませてあげ、旅をしていたときには泊まる場所を提供し、着るものがないときには服をあげ、病気のときにはお見舞いしてあげるように、私たちは、私たちが出会う、困っている人たちだけでなく、すべての人たちに対して、お互いに助け合い、励ましあっていく、そういう愛の行為をすることが、結局は神さまを愛していることにつながるということがここには書かれています。

『塩狩峠』や『氷点』といった小説を書いた三浦綾子さんは、キリスト教徒でした。

三浦さんはもうお亡くなりになりましたが、亡くなる前に「人間には、愛するという言葉は言えても、厳密な意味で、真に愛するということはできないのではないか」と問いかけられたという話を何かの本で読みました。この三浦綾子さんの問いかけ、考えさせられるものがあります。人を「真に愛する」とはどんな愛し方のことをいうのでしょうか。第一、人は「真に人を愛すること、人を大切にすること」が出来るのでしょうか。「真に人を愛する、人を大切にすること」ということは、自分のことはさておき、その人のことを考えるということだと思いますが、それは、人間にとって本当に難しいことだと思います。

人間というのは、結局、自分のことが一番大切で、自分がかわいく、自分が損をしてまで、自分以外の人のことを愛することはできないのではないのでしょうか。あるいは、自分がつらい思いをしてまで、しんどい思いをしてまで、人のために尽くすことができるのでしょうか。人は本能のみで生きているわけではありません。サルなどの霊長類はもちろん、ラットですら、援助行動をすることを、本学心理学部の青山謙二郎先生が卒業論文の実験で示しました。

究極の場面ですら他人のことを考えた行動がとれるか、その答は、今度の東日本大震災の後の人びとの行動にあったように思います。もちろん自分のことしか考えることのできなかった人びとも沢山いたでしょう。しかし、自分の命を顧みず、自分の苦しみ、悲しみを顧みず、またしんどさを顧みず、なんと多くの人びとが自分のためでなく、人のために力を尽くした、また現在尽くしていることでしょう。

震災の現場に行くだけでなく、それぞれの場所で、それぞれの立場で、一人一人の大切さのために活動している方がたくさんいらっしゃいます。その一方で、残念なことに私たち人間は、人をいじめたり、迷惑をかけていたりし、独りよがりの行動をしていることに気がつかないこともあります。また、時にはそれに喜びを感じているのではないかと思うことさえあります。

私たち人間は神様ではありません。完全な存在ではありません。不完全な私たち人間にできることは何かと言えば、お互いに助け合い、尊重しあい、認め合い、学びあっていくことではないかと思います。人一人を大切にすること。それをみんながやる。そこから世界が良いものになってゆく。そして私も、皆さんも幸せになれる。心理学的にみてそんな気がします。

与うる心

新島教育理念を表す言葉として徳富蘇峰は「彼らは世より奪わんとす、我らは世に与えんと欲す」という言葉を選びました。すべてのいかなる立場の人に対しても、同情や哀れみでなく、人として共生すべく心を込めて「与うる心」を覚えること、それこそ同志社の精神ではないでしょうか。

今日のタイトルの言葉は、ややもすれば、激動の社会のなかで、自己中心的になり、規則が何よりも優先する形式的な、そして多くの事柄が安きに流れつつある我々同志社人を始めとする現代人に対して、人を思う心の大切さを訴えています。

人ひとりをおもんばかりの気持ち、与える心をもち続けられれば、もし仮に知らず知らずのうちに人を傷つけるような、差別的な言動や行為を行ってしまったとしても、その後そのような言動、行為をとらないようにすることができるように思います。

一度、新島の「人一人ハ大切ナリ。一人ハ大切ナリ」という言葉を噛みしめ、人ひとりの大切さを覚えたいものです。

2011年6月1日 同志社スピリット・ウィーク春学期
京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録